

糸電話

教育相談課だより
平成30年12月19日
第12号



茨城県の相談員として ～電話相談専門研修会～

11月21日（水）に、「電話相談専門研修会」を行いました。この研修は、県や市町村の相談機関、関連施設等で、様々な相談を受けている相談員の研修です。家庭教育に関わる相談員、各市町村児童福祉担当者、県の機関、市町村教育委員会の社会教育指導員など、県内で相談に携わっている方達がたくさん集まりました。相談は、電話であったり、相談施設に来ていただいていたったり、あるいは、相談員がご家庭を訪れてであったりと機関によって様々です。

どの相談員も、話に耳を傾けるだけではなく、心も傾け、丁寧に話を聴くことを心掛けています。しかし、相談を終えると「本当の気持ちを聴けなかったかも。」「十分気持ちを分かってくれたらいいな。」「励ましたつもりだが、自分の考えを押しつけてしまったかもしれない。」等々、日ごろの相談を常に振り返っています。また、悩み事や心配事を抱えている方に寄り添う相談員でありたいと願い、新しい情報や連携を求め、自分自身の相談のスキルを高めたいと思っています。



茨城大学 丸山 広人先生の講演

電話相談の基本的なことが分かり、とても参考になった。いろいろなタイプの方に苦慮しているので、今後に生かしていきたい。

他市町村の方のお話を聴けて良かった。共通することも多々あり、それぞれの対応などを協議できたことで、視野が広がった。

午前中は、茨城大学教育学部教育実践高度化専攻の准教授、丸山 広人先生による「電話相談における見立てと対応」という題で講演をいただきました。「相談者がアドバイスを求めているのか、話を聴いてもらいたいのかなど、電話相談に何を求めているのか相談員は見立てていくことが大切である。」というお話に、会場の相談員の皆さんは、それぞれが対応している相談者を思い浮かべ、うなずきながら聴いていました。

午後からは、5つの分散会に分かれ、様々な機関の方で編制された班ごとに、相談について活発な協議がなされました。参加者の感想をご紹介します。

講演は、電話相談のみではなく、対面型のカウンセリングでも応用が利くものだった。見立ての大切さ、どう見立てるのか基準が分かった。

分散会では、学校のことについて詳しい方にお話をいただいたり、情報交換ができた、たくさん学べる機会となったので、すっきりした。

自分が関わるケースを具体的に思い浮かべながら聴き、とても参考になった。相談者のニーズに答えられるように対応することが相談員としてやるべきことだと思った。

様々な立場の方と話をすることで、知識が広がり、貴重な体験となった。それぞれの立場で専門性を生かすためにも分業が必要。負担も軽減できるのではと思った。



講演を聴く会場の皆さん



午後の協議の様子

参加された皆様、アンケートに御協力をいただき、ありがとうございました。来年度は、9月上旬に開催する予定です。

教育研修センターでも電話相談を行っております。（詳しくはセンターHPをご覧ください。）お話を終える時、「思い切って電話してよかったです。」「頑張ってみます。」等々の言葉が相談員の何よりの喜びです。時には、相談者の方がやりきれない気持ちやせつなさや口にして電話が切れることもあります。相談員は「これですっきりできたらいいな。」「元気が出ますように。」「お話ししてくださってありがとうございます。」という思いを込めて受話器を置いています。電話での相談は、「相談しよう!」と思い立った時にできます。匿名でお受けすることもできますので、悩みを一人で抱え込まずに、よろしかったらお電話ください。